

令和 2 年 2 月 12 日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院看護福祉学研究科長 殿

主査 塚本 容子

副査 平 典子

副査 小林 正伸

副査 太田 喜久子



このたび 櫻庭 奈美氏 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1 学位論文題目 がんと認知症を併せもつ高齢者に対するがん疼痛緩和実践モデルの構築

2 論文要旨 すでに配布のとおり

3 学位論文審査の要旨

学位論文審査及び最終試験を2020年1月31日に実施した。まず、学生が約20分にわたり、論文概要のプレゼンテーションを行った後、主査及び副査からの質問に対して学生が返答した。主要な質問に対しては回答することが出来ていた。

4 最終試験の要旨

博士論文審査評価項目に基づき審査を行った。問題意識が明確であり、研究目的・テーマが現在の臨床課題を解決するために必要な研究であると評価された。先行研究のレビューも十分行われていた。

方法論に関して、「がん疼痛緩和モデル」の作成に至るプロセスの記述に一部整合性に欠ける箇所があり、指摘後、修正は確認されている。合わせて、作成した「がん疼痛緩和モデル」の有用性の検証において、方法論の記述が不十分な箇所に関しても、指摘後、修正されていた。しかし、論文のボリュームがかなりあるため、表記の揺れが生じている箇所に関しては、最終の提出までに修正が望まれる。

認知症がんと高齢者に対するモデル検証ということもあり、その有用性を証明することは、難解な課題であったが、看護師の実践評価から検討するという点で、今までの看護実践を改めて確認できる結果が得られたことは意義があった。本研究の学術的意義は認められ、臨床現場の質向上につながる研究であると結論が出された。

しかし、このテーマでの今後の研究活動への展開については、考察も含め、明確ではなかった。本研究がどのように看護研究に貢献し、今後について考察で追記されるとより良い内容になると思われる。

最後に、本論文に関わる原著論文が 1 本発表されており、修了要件を満たしている。

以上の審査の内容を踏まえ、論文と最終試験の内容を総合的に判断した結果、審査員一同、下記の結論に達した。

以上の結果 櫻庭 奈美氏 は、  
博士(看護学) の学位を授与する資格が ある  
博士(臨床福祉学) の学位を授与する資格が ない と判定する。